

# PHOTO ESSAY

## 東広島キャンパスの自然(植物)

-20-

写真・渡部 佐知子

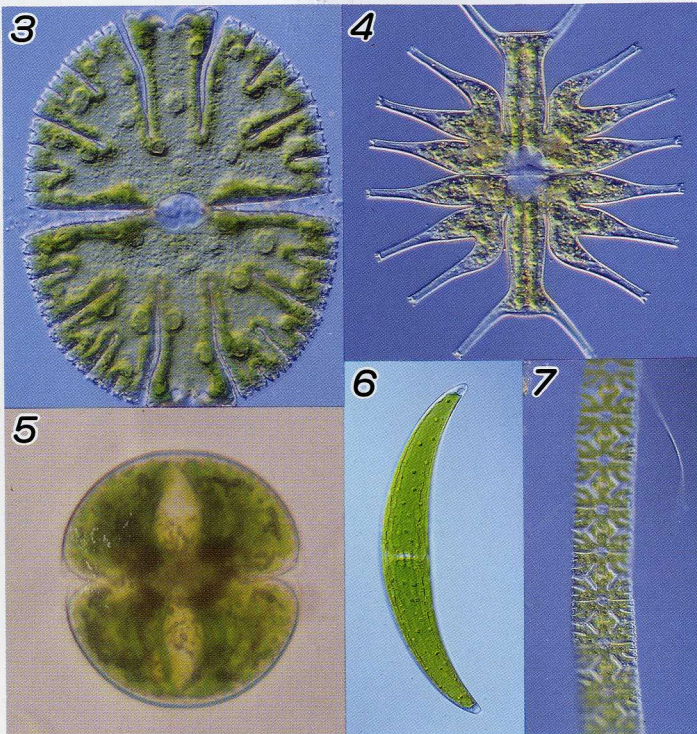
(理学研究科博士課程前期1年)



### ツツミモ類

Desmidiaceae

— 水の中の妖精たち —



1. 山中池



2. ツツミモ類のいる水辺

3. *Micrasterias thomasiana*
4. *Micrasterias alata*
5. *Cosmarium obsoletum*
6. *Closterium ehrenbergii*
7. *Micrasterias foliacea*

東広島キャンパスは、ぶどう池、山中池などの溜池や角脇川があり、また小さな湿地も散在している水の豊かな環境といえる。その水を一滴とり顕微鏡のぞくと、そこにはおびただしい数の微生物の世界が広がっている。それらの中でひととき目をひくのは、今回紹介するツツミモの仲間である。ツツミモは鮮やかな緑色の色素体を持っている緑藻類の仲間だが、いずれをとってみてもはっとさせられるほど美しい姿をしており、水の中の妖精といっても過言ではない。一滴の水は、しばし私たちにミクロの世界の旅を楽しませてくれる。

ツツミモの仲間の多くは細胞の中央がくびれており、あたかも二個の細胞でできているように見えるが、実はひとつの細胞でできている。なかには細胞が一行に連なって糸状の群体になる変わり者もいる。三日月の形でお馴染みのミカツキモもツツミモの仲間である。ほんの一部しか写真で紹介できないのが残念であるが、それらの姿は実にさまざまで、単細胞ながらよくぞここまで多様化したものだと思嘆させられる。

形が変化に富むことから、その種数は非常に多い。日本淡水藻類図鑑によると、ツツミモの仲間は日本からおよそ千種が報告されている。日本産のシダ類は約四百種であるから、これと比べるといかに種類が多いか想像できよう。さらに日本全国のみならず、熱帯から極地圏まで世界に広く分布しており、これまでに世界からおよそ三千種近くが報告されている。ヨーロッパの北部や高山に成育している種類が、日本の高山や平地の池、さらには熱帯にも分布していることがあるのには驚かされる。

このように種数も多く世界中に広く分布しているツツミモの仲間だが、水のあるところなら必ずその美しい姿を見ることができるといえるのかといえばそうではない。環境の変化に非常に敏感な藻類なのである。例えば一口に溜池といってもさまざまなタイプがある。ツツミモの仲間が好む生育地は、日当たりが良く、歴史的にも古く、しかも人為的影響の少ない安定した溜池である。シャジクモ、ヒツジグサ、ジュンサイなどが生育する水のきれいな溜池では、これらの水生植物をそっと集めてビニール袋に入れ、少量の水とともに強く振ると、その水の中には多くのツツミモの仲間が見られる。しかし、深く透明で沈殿物も少ない池、ヨシ、ガマ、ヒシ、ウキクサなどが密に繁茂して日当たりの悪くなった池、養魚池などの富栄養化の進んだ池では、彼ら(彼女ら?)の姿を探すのは至難の業である。

わたしは山中池から持ち帰った水の中に、多くのツツミモの仲間を見ることができ、心休まる思いがした。これら肉眼では目にするのできない美しく小さな生物のためにも、豊かな自然環境を永久に残していきたいものです。

(わたなべ・さちこ)